

「貼り付け式樹上脱渋法」による脱渋を行った カキ「会津身不知」の果実特性

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

果樹－カキ－栽培

2 担当者名

政井紀恵

3 要旨

樹上脱渋は、「平核無」などでは高付加価値技術として用いられているが、「会津身不知」では技術が確立していない。そこで、「会津身不知」において「貼り付け式樹上脱渋法」*1(以下、貼り付け法)の実用性を検討し、貼り付け時期の違いによる果実品質への影響を明らかにした。

*1 粉末アルコールを樹上果実に直接シールで貼り付ける方法。

- (1) 貼り付け法(第一包装(株)製、グレード 20 1枚、3日間貼付)により、着色がすすむ(図1)。
- (2) 9月中旬(9/17)貼付は、果皮障害や生理落果を発生する(表1、写真1)。
- (3) 9月下旬(9/30)貼付は、9月中旬(9/17)貼付に比べ、28日後の収穫時に渋が残る(表1)。
- (4) 汚損部位は、慣行(アルコール脱渋後)では果てい部が多く、貼り付け法では果頂部が多い。

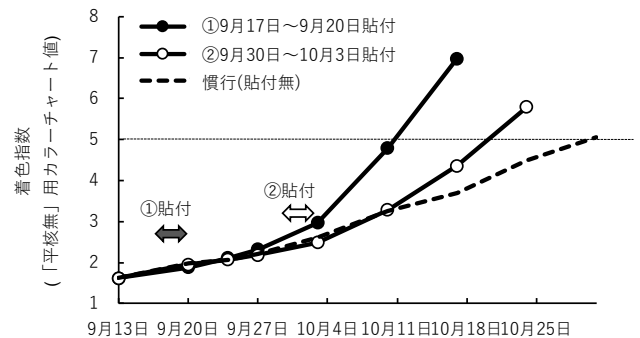


図1 樹上脱渋処理による「会津身不知」の着色(果頂部)の推移
*慣行では、指数5を目安に収穫

表1 「貼り付け式樹上脱渋法」による脱渋を行った「会津身不知」の果実品質

貼付開始日	貼付～収穫(日)	収穫日	汚損程度2*1 の果実割合(%)	褐斑 程度*2	脱渋 程度*3	果皮障害の 果実割合(%)	生理落果の 発生割合(%)
9月17日	28	10月15日	6.7	0.3	0.5	3.3	5.6
9月30日	28	10月28日	10.0	0.9	1.2	0	0
慣行	—	10月29日	23.3	—	2.7	0	—

* 調査は、収穫当日。ただし、慣行区は収穫当日にアルコール脱渋処理し、11月13日に調査。
*1 汚損程度は、0:汚損なし、1:汚損あり(許容範囲)、2:汚損あり(許容範囲超)、の3段階評価。
*2 褐斑程度は、果実を縦断し、0:褐斑なし、1:一部に褐斑あり、2:全体に褐斑あり、の3段階評価。
*3 脱渋程度は、果実を縦断しタンニンプリント法により、0:染色なし(完全脱渋)～4:全面染色(未脱渋)の5段階評価。



写真1
果皮障害の様相

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和元年度～令和2年度
- (2) 研究課題名 積雪寒冷地における果樹の省力安定生産技術の確立

5 主な参考文献・資料 なし